



「うおお、体が熱くなってきたあ〜！」

三年一組の教室から飛び出したリンちゃんが、ぼくのランドセルをどかっとたたいて走って行った。つんのめったぼくも、つられて思わず走り出す。

「リンちゃん、どうしたの!？」

「ともっち、急げえ！」

それだけいって、学童へまっしぐら。ぼくは、わけもわからず追いかけた。

学童のある児童館につくと、リンちゃんがいった。

「一年生のかんげい会は、ダンスに決めた！」

「え……?？」

ぼくは目を丸くした。

二週間後、新一年生になった子たちのかんげい会を学童

ですることになっている。そこで、グループごとに出し物をするんだけど……ぼくは、ダンスなんて反対!

「みんなが、なんていうかなあ……」

ぼそっと、つぶやいた。一歳のときから同じ保育園で、学童のグループもずっと一緒のぼくは、リンちゃんのガンコさを知っている。リンちゃんが班長のさんまグループは、全部で六人。二年生から四年生までいるけど、四年生のいっくんが反対したら、たぶんあきらめる……かな。

そのうち、学校が終わった子たちがぞろぞろと学童に集まって、ぼくらの班、さんまグループもそろった。魚のさんまがグループ名なんて変だけど、リンちゃんが「ウケる〜!」って、これに決まった。

「うちの出し物は、ダンスがいいと思う!」